

広報

# ただみ

# 3

2013 月号

No. 514

平成25年3月10日



## 今月の表紙

### ひなまつり

ステージに飾られた雛壇の前に笑顔でならんでいるのは只見保育所の年長組さん10名。3月1日に行われた「ひなまつり誕生会」での記念スナップ。この日は、保育所のお友だちみんなで歌を歌ったりゲーム遊びで盛り上がり、楽しいひとときを過ごした。朝日と明和でも行われた。

## 第41回

### 只見ふるさとの雪まつり

青少年健全育成主張大会・標語入賞者表彰式..... 2~5

役場新庁舎..... 6~14

建設設計業務プロポーザル第三次審査会 他..... 15~17

地域人材育成ダイヤモンドプラン事業..... 18~19

町の話..... 20~21

# 第41回只見ふるさととの雪まつり



# 寒さ吹き飛ばそう！

キャッチフレーズ「寒さ吹き飛ばそう！」。只見町のビッグイベントは、ときに来場者みんなの熱気が寒さも忘れさせる。そんな熱い冬の祭典「第41回只見ふるさとの雪まつり」が、2月8日の大雪像ライトアップ（前夜祭）からスタートし、9日、10日の二日間にわたりJR只見駅前広場をメイン会場に、只見スキー場をサブ会場とし盛大に行われました。



雪が降ったりやんだり吹雪いたり、只見の冬を象徴するような天候のなかな行われた雪まつりには、期間中3万1千人と昨年以上を上回る方々が訪れ、今年も最高の盛り上がりを見せました。

毎年、観る人を感動させる雪の大雪像、今年来場者の前に姿を現したのは、NHKの大河ドラマ「八重の桜」の主人公「新島八重」の夫「新島襄」が設立した大学「同志社大学・クワイク記念館」を再現した雪像です。正面の壁には桜の花があしらわれ、迫力があって美しく、どことなくかわいらしい仕上りの大雪像は、高さ18メートル、幅34メートルと只見の雪まつりで見られない圧倒的なスケールで完成しました。

雪の入場門「巳」は今年も株式会社ハイテック田子倉事業所の皆さんが作製されました。入場門前は今年も来場者の記念撮影スポットになっていました。

会場内には小学生、中学生、高校生が作製した雪面の壁画や雪像が来場者を迎え、さらにろうそくの優しい温かな光が印象



的なキャンドルステージをはじめ、各団体の皆さんが作製された雪像の数々が雪まつりムードを盛り上げていました。雪のすべり台には子どもたちが集い歓声を上げながら雪と触れ合い、楽しい時間を過ごしていました。

たくさんのお店が軒を連ねる「ゆきんこ市」では、只見ならではの郷土料理やグルメを味わう人や、ゲームを楽しむ子どもたちでにぎわい、どのブースにも笑顔があふれていました。

恒例の地酒・甘酒のふるまいコーナーや、只見町赤十字奉仕団によるなめこ汁のふるまい、民芸品・つる細工展示即売コーナー、只見町食生活改善推進員会のコーナーも人気で、来場者は民芸品を手にとったり、ニシン漬けなどを味わい、思い思いに過ごしていました。

只見スキー場では、スノーモービル体験やスノーシュー体験が行われ、雪と触れ合うスポーツの醍醐味を味わおうと大勢の方が詰めかけました。

一昨年7月に発生した集中豪



雨による大水害からの復興を目指し、現在も町内各所で復旧工事が行われ、災害に強い安全で安心して暮らせる町づくりが進められています。これからは町民皆さんの心の復興にも町は全力で取り組みます。昨年の雪まつりも、町民の心をひとつにして、復興を願い、明るく元気な只見町を取り戻そうと、テーマを「みんなで復興がんばっぺー」とし行われました。今回の雪まつりも昨年に続き、町民の皆さんはじめ只見を訪れた町外や県外の皆さん全員で最高に盛り上がりました。只見を代表する冬の大会「雪まつり」は町民皆さんの誇りであり、心の復興を助長する特効薬だと信じています。すべてが復興するまでは時間がかかると思いますがみんな支え合い、がんばって前に進みましょう。

最後に、このイベントの開催を応援いただいている皆様、そして、ご協賛を賜りました皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





スタートのパレード



大ステージでの郷土芸能



キャッチフレーズを考えた「服部沙耶佳さん」



八代亜紀さんのステージ



目黒町長らによる鏡割り



雪中大みこし



厄払いの儀



築取太々神楽

EVENT

2月9日

2月10日



大人気!雪のすべり台



郷土芸能発表



「はんにや」のお笑いショー



スノーフラッグス



ファイヤーパフォーマンス

雪まつりスタッフのみなさん、お疲れさまでした。ありがとうございました。



(2月8日撮影)



(2月8日撮影)



(1月23日撮影)

「皆さんとふれあえてうれしかった。ありがとうございました。」  
雪むすめさんからひとこと

ばば みさと  
馬場 美里さん

雪が降り、とても寒い二日間となりましたが、たくさんの方々に「只見ふるさとの雪まつり」に来場していただくことができました。雪むすめという大役に不安もありましたが、来場された方々に只見町の魅力や人の温かさを感じていただくことができました。また、自分自身も改めて只見町の良さに触れることができました。あっという間の二日間、とても貴重な時間になりました。

最後に、雪まつりと雪むすめを温かく見守ってくださった皆さん、たくさんの方々に支えていただき無事に雪むすめの役目を終えることができました。本当にありがとうございました。「第41回雪まつり成功万歳。皆さん本当に、やっけになりました！」



さとう まよ  
佐藤 麻世さん

雪むすめをやることが決まってから、友人や地域の方々からたくさんの励ましの言葉をいただき、精一杯頑張ろうという気持ちで臨むことができました。

二日間、町内外から来ていただいた多くの方々とふれ合うことができ嬉しかったですし、様々なイベントにも参加し、改めて雪まつりの伝統や楽しさを実感しました。

多くの方々に支えられ、雪むすめを務めさせていただけたことに感謝しています。本当にありがとうございました。



# 経験から学んだことや将来への思いを言葉に... 健全育成主張大会・標語表彰



▲主張大会発表者と標語入賞者のみなさん

第27回只見町青少年健全育成主張大会および健全育成標語入賞者表彰式が、2月24日に季の郷湯ら里で行われ、発表者は日頃の経験から学んだことや将来への夢や希望、普段考えていることなどを気持ちを含め熱く語り、その姿に感動の拍手が送られました。

## 標語入賞作品

(敬称略)

部門	賞名	標語	所属	氏名
小学生の部	優秀賞	言われても 言ってもうれしい 「ありがとう」	只見小学校	お大塚 ことみ
	佳作	協力と 笑顔でつながる 只見の輪	只見小学校	かわ川 合み
	佳作	只見町 みんなのふるさと 自然首都	朝日小学校	わた渡 部美
	佳作	かなえない 夢を大事に 一歩ずつ	明和小学校	きく菊 地みずき
	佳作	雪げしき きれいが自慢だ 只見町	明和小学校	ふ布 沢はると
	佳作	只見町 守っていくのは私達 歴史・自然・地域の輪を	明和小学校	あい会 田みゆ
中学生の部	優秀賞	どんなことも 負けてたまっか 只見町	只見中学校	しまに 谷たくみ
	佳作	思いやり 人と人とをつなぐもの	只見中学校	やま山 内あや
	佳作	あいさつと 笑顔の架け橋 かけようよ	只見中学校	い飯 塚けんたろう
	佳作	父母の がんばる姿に 金メダル	只見中学校	わた渡 部こう
	佳作	つなげよう 感謝の気持ち 明日へと	只見中学校	き吉 津あき
高校生の部	優秀賞	あいさつは 心育む 第一歩	只見高等学校	ほし星 ひかり
	佳作	夢咲かす 憧れ胸に 未来へと	只見高等学校	わた渡 部なつ
	佳作	おはようと 言える家庭に 非行なし	只見高等学校	さい齋 藤ゆう
	佳作	ダメな事 「ダメ」と言って くれる友	只見高等学校	い五 十あ
	佳作	人の手と 心をつなぐ ポランティア	西郷養護学校高等部	わた渡 部あ
一般の部	優秀賞	輝ってる ほめて伸ばそう きみのよさ	蒲生	た田 中ケイ子
	佳作	帰り待つ 夕げ楽しい 母の味	只見田中	かん菅 家ミヨ子
	佳作	不便こそ 生き抜く力 見え出せる	黒谷	はら原 田ま
	佳作	只見っ子 みなぎる力 未来へと	小林	いし石 倉とも

主張大会では、小学生3名、中学生3名、高校生2名が、今思っていることなどを感じていること、体験したことなどを心を込めて発表しました。その熱い思いが約150名の来場者に伝わり、発表者の言葉に感動されていました。

続いて行われた標語入賞者表彰式では、青少年健全育成町民活動にご理解とご協力をお願い

会議会長の目黒町長が、出席された入賞者一人一人に賞状と記念品を贈りました。標語には270点の応募があり、どれもすばらしい作品ばかりでした。主張大会での発表内容と、標語の入賞作品を紹介します。ぜひ、ご覧いただき、健全育成の活動にご協力をお願いします。

なお、同日に同会場で平成24年度芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞・町民文芸コンクール表彰式も行われました。この内容については、4月号で紹介しま

# 今までの自分は超えられる



只見小学校 6年

さかい こうし  
酒井 康志くん

ぼくは、走ることがあまり得意ではありません。特に、長さより走は、つらく、苦しい思いをするので、いろいろな種目でした。

でも、今は違います。今までの自分を超えることができたからです。それは、こんな経験です。

五年生の時のことです。毎年行われている体育交歓会に、高学年となったぼくも、只見小学校の代表として参加することになりました。練習が始まる前に、出場する種目を決めなくてはなりません。ぼくは、どの種目にしようか、迷っていました。すると、先生から、「康志は、マラソンが苦手みたいだから、逆に千メートル走をやって練習してみたらどうだ。」と言われたのです。

その時は、千メートル走なんて、いやだなあと思いました。しかし、先生にすすめられたことで、少しだけやってみようという気持ちも生まれてきま

した。なぜなら、高学年になったので、何か一つ、チャレンジしてみたいとい前から思っていたからです。

大会へ向けて、たくさん練習をしました。走り続けると、やはり息が苦しく、何度もやめたいと思いました。でも、自分で決めたことだからと何とかやり通し、体育交歓会当日を迎えました。結果は、最下位でした。とてもくやしくて、もう来年は絶対千メートル走はやらないと決めました。

そして六年生、また体育交歓会に出場する種目を決めるときがやってきました。前年のことがあり、今年も、百メートル走にしようと思っていました。が、本当にそれでいいのかという気持ちも残っていました。去年、あれだけがんばったのに、にげだすような気がしたのです。結局、先生のすすめもあり、もう一度、千メートル走に挑戦することにしました。

それから一ヵ月、ぼくは本気で練習に取り組みました。インターバル走や

十分間走、練習はやっぱりつらくて苦しく感じました。でもぼくは、最後の体育交歓会を悔いのない大会にしようと思ひ、がんばりました。タイムも縮まっていきました。そのことが力になり、ますます練習に身が入りました。

そしていよいよ体育交歓会当日がやってきました。次々と競技が進み、ついに千メートル走の種目が始まりました。スタートの合図とともに、ぼくは勢いよく走り始め、先頭集団につけました。同じ学校の友達や先生、保護者の方々の声えんが後押ししてくれ、前半はいいペースで進みました。しかし後半、つかれとともにだんだん追い抜かれて順位を下げてしまいました。そしてゴール。終わってみると、出場した六年生の中では、最下位になっていました。走り終わったとき、ぼくは、「ああ。また去年と同じだ。」

と思いました。でも、自分の中では、以前の自分よりもずっと力は伸びているはずだという手ごたえを感じていました。ぼくは、三週間後に行われる校内マラソン大会へと気持ちを切りかえることにしました。これが最後の挑戦のチャンスでした。

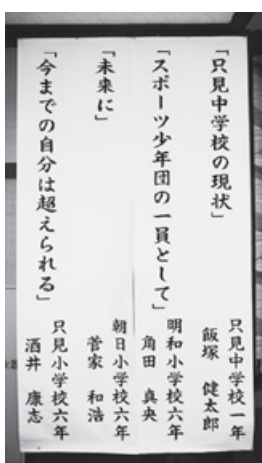
以前のぼくだったら、友達としゃべりながらゆっくり走っていた朝のマラソンも、一人でしっかりと走りました。そして小学校生活最後のマラソン大会。六年生男子が走り出しました。スタートから、友達数人との接戦になりました。校庭へもどってきて、あと二百メートルとなったときも、まだ自

分をふくめて三人の先頭争いが激しく続いていました。ぼくは、最後に残っていた力を出しきり、ゴールラインを駆けぬけました。結果は、一位と胸の差で二位でした。でもくやしきはありませぬ。今までの最高順位の記録をことう新することができたからです。

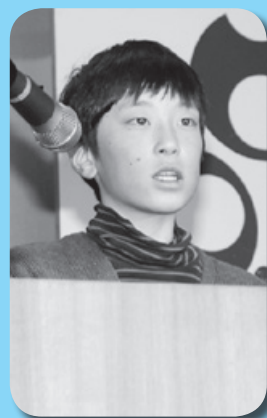
「今までの自分を超えられた。」  
このとき、ぼくはこう思いました。  
この二年間の、長さより走への挑戦は、努力すれば必ず自分の力になるということをぼくに教えてくれました。しかし、ここまですごい力になったのは、自分一人だけの力ではありません。一緒に練習し、はげまし合った仲間、応援して下さった先生方、そして、家族の支えがなくては、と中であきらめてしまったかもしれませぬ。周りの人たちとの関わりが、ぼくに託って一番大きな力になりました。

これから先、つらいことや苦しいこともあると思います。けれども、体育交歓会での二年間の経験を思い出し、あきらめることなく、必ず乗りこえられると信じて、チャレンジしていこうと思ひます。

「これからも、今までの自分を超えてみせるぞ。」



# 未来に



朝日小学校6年

かんげ かずひろ  
菅家 和浩くん

「おおー。」

北京オリンピック、ロンドンオリンピックにビーチバレー日本代表の朝日健太郎さんが、朝日小の体育館に入ってきました。身長は百九十九センチメートル。あと一センチで二メートルです。どうやったらそんなに背が伸びるのだろう。建物を見上げているようにした。

バレーボールの練習が始まりました。レシーブの形を教えてもらいました。親指を下に向け、ひじを固める。その形のまま走り、ボールを返す。相手のいる所に正確に返すのは難しいことでした。練習をしようまく返せるようにしたいと思いました。

「わああー。」  
なんと、朝日さんがオーバーで上げたボールが朝日小の体育館の天井にあたったのです。健さんは笑顔でピースサインをしていました。

バレーの授業が終わるころ、健さんから宿題が出ました。

「五、六年生全員で二十四回パスをつなげてほしい。」

と。僕はちょっと不安になりましたが、チャレンジし、できるようにしようと思いました。

五時間目は朝日っ子ルームで健さんによる心の授業です。なぜそんなに背が高いのか。わけはよく寝ることと言っていました。

「実は子どものころ、運動が苦手でした。」

「ええー?。」

健さんの言葉にみんな声をそろえておどろきました。健さんは小学校のころはサッカーをやっていた、中学生になりバスケットをやろうとしたそうです。でもきつそうだったからバレー部に入ったのだとのことでした。そして、北京オリンピックではビーチバレーの日本代表になり一回戦を突破したので。屋外の砂のコートで、二人対二人でやるビーチバレーを、僕もやってみたくまりました。

さて、次の日から宿題の練習が始まりました。レシーブはうでを振らずにひじを固め、送り返すイメージ。オーバーは、十本の指でボールを包むようにし、手はおでこの前におく。すばやくボールの正面に入り、ひざを使うのを意識して、相手の打ちやすい所に返す。声を出し、二十四回つなぐ。朝も、昼休みも、体育の授業でも練習に励みました。

五、六年生でつないだ最高記録は十八回。二十回以上つなげたかったので、なかなかいかなかったのです。六年生だけで練習をした時、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五。ついに成功。じいんとしました。でも五、六年生二十四人で一回ずつつないだのではないので本当の成功とは言えません。でもこれで、成功する可能性を感じました。

健さんが宿題の成果を見に、もう一度朝日小に来てくれた本番の時。五、六年生全員二十四人で円陣を組みました。

「二十四回つなぐ。」「二十四回つなぐ。」

「あきらめない。」「あきらめない。」

「朝日。」「朝日。」

「ファイト オー。」

一つのボールを二人一回ずつ、アンダーやオーバーでレシーブ、パス。二十四人あきらめません。でも、ボールは手の届かない所に飛び、床に落下。

「チャンスは、あと十回な。」

と健さん。でも十四回までつなぐの

がやつとで挑戦は失敗で終了でした。うつむくみんなの目から涙がこぼれまわりました。すると健さんが

「じゃあ、おれと一緒に二十四回つなごうよ」と言ってくれました。健さんはゼロと数え、ぼく達のボールを毎回受け止めて返してくれたのです。あきらめず次の挑戦です。

「二、ゼロ、二、ゼロ、三、ゼロ、...。」

数回やりなおし、ついに二十四回成功。やったあ、と思いきや健さんが、

「今度は、おれの分も数えて、百回つなごう」と言いました。百回なんて、みんな二回ずつやらないとできないのに、でも、できそうな予感がわいてきました。

「二、二、三、...。」

すばやくボールの正面に入り、ひざを使うのを意識して、相手の打ちやすい所に返す。百回の挑戦の始まりです。

「...三十三、三十四、...八十七、八十八、...九十五、九十六、...」  
なんか不思議なパワーが朝日小の体育館にみなぎりました。そして、

「九十九、百。」

ついに百回つなぐことに成功したのです。これは、五、六年生と健さんが失敗してもあきらめなかったからできたことでした。

ぼくはまだ、将来自分がどのような仕事をするかを選べないでいます。でも、今回朝日健太郎さんに教えてもらった失敗してもあきらめない心と、相手のことを考えてパスを返しつない



でいく心を未来にいかし、将来、多くのひとのためになる仕事をしている自分を夢んでいます。

# スポーツ少年団の一員として

明和小学校6年

おま さん  
真央  
つのだ 角田



五年間続けてきた大好きなバレーボール。卒業を控え、明和スポーツ少年団を退団した今、さみしい気持ちがあたたかみあげてきます。

しかし、一つのことを長く続けることができた満足感と、自分の心や体がバレーボールを通して大きくなった充実感があります。監督やコーチの皆さん

私の両親。そして、いつも一緒だったチームの仲間達。また、この五年間に関わった相手チームも含め、たくさんのお世話になった皆さんに感謝して、五年生にしっかりバトンを渡しました。

私がバレーボールに興味をもち、スポーツ少年団に入団したのが五年前。運動はそれほど得意ではありませんでしたが、お母さん達が元気にバレーボールを楽しんでいる姿を見て、私もちよつとやってみようかなという程度の気持ちで入部しました。大きなお姉さん達のかっこいいプレーにあこがれをもちながら、二年生の私は、コート周りでボール拾いに夢中になりました。

三年生になって背番号をもらい、ベンチに入れてもらえることになりました。試合はまだまだでしたが、六年生を見習って、練習を一生懸命に頑張った思い出があります。

四年生では、応援団長でもある背番号7番のユニフォームをもらいました。まだ試合に出場することはできませんでしたが、この番号を身に付けている以上、他の誰よりも大きな声で、そして声がかかるまで、応援をがんばりました。その声がコートの中のチームのみんなに届き、笑顔が返ってきた時、チームのみんなと一体になれた感じがありました。

レギュラーとして試合に出場できるようになったのが五年生の時でした。でも、カットが上手く上がらず、下級生にポジションを譲ってしまったこと

もあります。必死に練習を頑張りましたが、出てくるのは悔し涙ばかりでした。レギュラーが目標でしたが、現実とはとても厳しいものでした。

六年生としてチームを引っ張った最後の一年間。一番印象に残っているのは、県大会出場を決めた一戦です。勝利の瞬間、私は仲間と一緒に跳び上がって喜びました。そして、涙があふれてきました。つらい練習に泣かされた日々。「もうバレーボールをやめたい」と、何度考えたことでしょうか。六年生として期待されることもプレッシャーでしたし、一生懸命、指導や応援をしてくれる監督やコーチ、家族にも、申し訳ない気持ちになったこともあります。いくらやっても上手くならない自分が、情けなくなるのが何度もありました。しかし、チームの一員として、今、私ができる精一杯の努力をし、それを乗り越えてきたからこそ涙が出たのだと思います。涙はいつまでも止まりませんでした。

ちよつとしたきっかけで始めたバレーボール。私は、なぜ続けることができたのでしょうか。

先日のお別れ会では、大人の方や下級生と試合をして、とても楽しいひと時を過ごすことができました。この楽しさがバレーボールなのだ、初心に戻ったような感じでした。

私は五年間、友達みんなとバレーボールをすることがとにかく楽しかったです。つらさも大きかったのですが、それよりも大きな楽しみがあり、続け

てきたからこそ味わえた感動があったのだと思います。本当に、充実した五年間でした。

明和スポーツ少年団、バレーボール部のみなさん。本当にありがとうございました。

四月からは、新たな私の挑戦、中学校生活が始まります。私はこれからも、自分の夢や目標に向かって、着実に前進していきたいと思えます。そのためにも、どんなに苦しいことがあっても、明和スポ少バレー部で学んだことをもとに、何事もあきらめずに、一步一步前進していきたいと思えます。



▲主張大会発表者のみなさん

# 只見中学校の現状



只見中学校1年

いづか けんたろう  
飯塚 健太郎さん

「自分の思っていることを『イエス』か『ノー』で答えてください。『今の只見中学校は乱れている。』」

こんな質問をされたら、皆さんはなんと答えますか。「イエス」と答える人は、たぶん少なくないと思います。もしも僕がこの質問をされたら、「イエス」と答えるに違いありません。自分でも思い当たる節はいくつかあるし、周りからもそういった言葉を聞くときがあるからです。

では、なぜ「乱れている」と感じてしまうのでしょうか。それはきっと何気ない日常生活に原因があると思われま

す。まず一つ目。それは「礼儀」です。今の只見中学校の生徒の中には、礼儀に欠けている人が少なからずいると思います。「礼儀」とは、先輩や先生、地域の方々など、目上の人に対してとても重要な行為です。最低限必要だと考

える「敬語」でさえ、使っていない生徒を僕はときどき見かけます。そこで

は、「○○だよ」とか、「○○でしょ」などといった、俗に言う「タメ口」が使われています。確かに親しい関係が

築けている証拠かもしれないし、会話も楽しく弾むかもしれません。しかし、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉

があります。いくら仲がよくても、友達ではありません。先輩は先輩。先生は先生です。目上の人を敬うという姿

勢をやはり大切にしていかなければならないのではないのでしょうか。そこを改善していかないと、周囲からは「生意気」と思われ、それが「只見中学校は乱れている」という概念につながって

しまう恐れもあります。最初の質問に「イエス」と答えた皆さんは、こう

いったことも一つの原因に挙げているのではないのでしょうか。そして二つ目。それは「服装」です。九月中旬に只見中学校の生徒会役員選

挙が行われました。その中でも、何人かの立候補者が「服装」について口を

なこともありませんが、Tシャツをズボンから出している生徒がいるという事です。そのことについては校則でもしっかり入れることに決まっています。ではなぜ、シャツを出してしまうのでしょうか。そのことについては、生徒会役員選挙で、ある立候補者が演説にて言っていました。「シャツを出してもカッコイイものではない」と。そう。シャツを出している人はお

そらく、「その方がカッコイイ」とか「シャツを入れるのはダサイ」などといった考えのもと、やっているのでしょうか。しかし、変にカッコつけてシャツを出している人より、そんな考え方を根本から捨て去り、きっぱりと否定したその立候補者の方が、何倍も何百倍もカッコイイと僕は思います。

そして、「服装」についてはもう一つ気になることがあります。それは「ジャージ登校」です。こういってしまふと聞こえが悪いかもしれませんが、制服で登校するという校則があるにもかかわらず、それを無視して登校するという事です。この「ジャージ登校」は前に述べた「シャツ出し」よりずっと深刻だと考えます。なぜなら、「シ

ャツ出し」は着替えたりした際、たまにたまに忘れてきたり、何か過激な運動をしてうっかり出たしまつたり等ということも考えられます。ところが、「ジャージ登校」については、うっかりジャージできてしまったなんてことはまずあり得ません。それは会社にパジャマで行ったり、コップにご飯をよそつ

たりするようなものです。つまり何が言いたいかというと、「シャツ出し」とは違い、「ジャージ登校」は「完全な悪意のもと」だということ。確かに、制服よりジャージの方が楽です。しかし「制服登校」は学校で決められたルールだし、そう大変なことではありません。それなのに守れない人がいるというのは絶対におかしいと思います。

今まで僕は只見中学校の生徒の短所ばかりを述べてきました。しかし、そのようなことをしているのはほんの一部。それ以外の人はしっかりとルールを守っているし、心の優しい人ばかりです。また、そのごく一部の人たちにだって長所はたくさんあります。よくはわかりませんが、僕は、よその学校の人たちに比べたら只見中学校の人たちは絶対がいい人たちばかりだと思います。優しい先輩方、気の合う友達、

僕たちのことを真剣に考えてくださる先生方、僕たちのために様々な面で支援してくださる地域の方々。そんな中で生活している僕たちなのに、悪い評判が上がるのはとても残念です。日常生活の中にちょっとした「間違えた考え」が存在してしまっているのを何とかしていかねばならないと思いま

す。一人ひとりがその間違いに気づけたとき、最初の質問の「イエス」は少しずつ消えていきます。今の只見中学校の皆さんならそんな間違い、すぐに気づけるはずです。そしてすぐに「イエ

「ス」はなくなりません。誰も只見中学校は乱れているなんて言えなくなりません。皆さん見ていてください。只見中学校は「変わります」



## 何のために 英語を学ぶのか

只見中学校2年

ばば まさき  
馬場 真樹さん

「学力」「学力」とよく叫ばれるこの世の中。今年から受験生となる僕たちには、これから先もずっと「学力」というものが必ずつきまといつてくる。高校や大学に進学するにも、就職をするにも、当然「学力」は必要だ。生きていく上で「学力」は必要不可欠と言っ

ていいほどだ。しかし、そこまで重視させている「学力」について、僕は疑問に思うことがある。それは、「僕たち中学生はなぜ英語を学ぶのだろうか」ということである。

英語は多くの国や地域で使われ、世界の共通語として扱われている。海外に行ったときや、外国人と会話するときに使うには最も利便性に優れた言葉だと言っても過言ではない。しかし、僕たちは今中学生。普通の中学生が海外へ行くことなんてほとんどないだろうし、外国人と話す機会なんて滅多にない。それに僕たちが学ぶ英語なんて、所詮挨拶程度に過ぎないし、たとえ、中学生が学ぶべき英語を完璧に使いこなせたとしても、「英語を話せる」とは到底言えないだろう。だとしたら、僕たち中学生が英語を学ぶ意味などあるのだろうか。

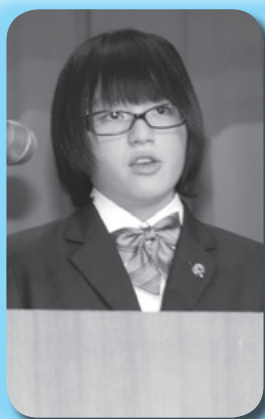
もし、だれかにそんな質問をしたとしても、返ってくる答えはだいたいの予想がつく。「将来のため」とか「受験のため」とか言うに違いない。より一層レベルの高い高校へ、よい会社に就職するための手段として受験は存在する。最終地点がなるべくいい場所であるための、ただの道選びのためでしかないのだ。それならば、受験に英語という科目はいるのだろうか。日本を出なければ、英語はあまり使われないだろうし、会社に就職したとしても、英語を必要とする職に就く人なんか半分もいないだろう。また、外国人の方だって、

下手な英語を使われるより、絵やゼスチャーで表してもらった方がよっぽどわかりやすいに決まっている。

だとしたら、使うこともない英語を将来のためとか、受験のためなどという理由だけで学ばせるのはいかなものだろうか。僕は、日本人に英語は必要だと思いつくし、英語を学ぶ時間を他の教科の時間に当ててほしいとさえ思う。

しかし、ある時ふと考えた。僕の発想は本当にすべてが正しいのだろうか。英語に限らず、言葉を学ぶということは難しい。日本人の僕が日本語を学ぶのだって、一苦労する。「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれを学ぶことが言葉を学ぶということだと言える。これだけ様々な要素があるのだから、当然言葉を学ぶということは難しいに決まっている。こんなに難しいことを僕のような中学生が、好んで学ぶわけはない。しかし、言葉を学ぶということ、英語を学ぶということには次のような大きな意義があると僕は考える。目の前に道があったとしても、踏み出さなくては前には進めない。言葉や英語を学ぶことで、新たな道が切り開かれるかもしれない。一生出会うことができなかった人とも出会えるかもしれない。そう。限られた人生の中で、様々な可能性が広がるのだ。そう考えると、英語を学ぶことが必要、時間の無駄なんて言えない。言葉を学ぶことで自分の可能性がより広がり、学力までも高まる。そう。大切

なのは理由なんかじゃなく、一歩前に踏み出し、いろいろなることを学ぼうとすることではないだろうか。だから、僕たち中学生は英語を学んでいるのだ。



## 私の 大好きなもの

只見中学校3年

ひの りょう  
日野 涼さん

突然ですが、私はとても飽きっぽい性格です。熱しやすく冷めやすい。まさしくそのとおりです。何かに夢中になっても長続きせず、しかも集中力も持続できません。そんな私ですが、夢中になって取り

組むことができる、心から好きだと  
言えるものが、最近になって見つける  
ことができました。残りわずかとなっ  
た中学校生活の中でやっと見つけたも  
の。それは合唱です。正直そんなに歌  
もうまくないし、続ける理由なんかあ  
りませんでした。それでも一年生のと  
きからずっと続けてきた合唱。

始めたきっかけは、一年生のとき、  
顧問の先生の部活動の説明を聞いて強  
い印象を受けたからです。

「合唱は誰でも、やる気さえあれば  
できます。歌が下手だと思っっている人  
でも、音痴が直ります。」

その言葉を聞いたとき、運動も勉強  
も苦手で、活躍の場があまりなかった  
私に希望の光が差しました。それで始  
めてみた合唱でしたが、嫌なこともた  
くさんありました。夏休みの練習は暑  
い中で行われます。立っているだけで  
も辛いのに、歌を歌っているとくらく  
らして倒れそうになります。夏休みが  
明けてからの練習は、昼休みに行われ  
ることもあり、ゆつくり休む暇もあり  
ません。練習では、先生に厳しい指摘  
を受けたり、先輩に怒られたりして、一  
年生のときは精神的に落ち込むことも  
しょっちゅうありました。その中でも  
一番辛かったことは二年生のとき、課  
題曲のレギュラーから外されてしまっ  
たということです。初めてできた後輩  
に、去年までいた自分のポジションを  
とられてしまったということがとても  
ショックでした。あまりの悔しさに家  
で泣いたこともありました。そんなこ

ともあり、好きになりかけていた合唱  
を嫌いになってしまいそうな自分がい  
ました。

そんなことがありながらも、私がこ  
の合唱を三年間続けることができたの  
には理由がありました。それは、他の  
活動にはないある魅力があったからで  
す。それは、学年に関係なく誰にでも  
できるという点です。特設部でもある  
ので、常設部を引退した三年生も参加  
することが出来ます。しかも学年の垣  
根を乗り越えて、一年生から三年生が  
一つになれる。そしてみんなの心が一  
つになったとき、人を感動させられる  
ような合唱に仕上がるのです。歌で人  
を感動させられるというのは本当に素  
晴らしいことだと思います。

そして私は今年、アルトパートのリ  
ーダーになりました。先生に声をかけ  
ていただいたときは「自分には無理だ」  
と正直思いました。でも、自分が味わ  
った辛い思いを先輩たちにはさせたく  
ない。心から合唱を好きでいてもら  
いたいという気持ちからリーダーを引  
き受けることを決めました。それから  
どうすればみんなが楽しみながら練習  
できるかを真剣に考えました。はじめ  
はうまくいかず、後輩にきつく当たっ  
てしまうこともよくありました。うま  
くいかず、一人で泣いたこともありま  
した。それでもみんなが楽しく活動で  
きるよう毎日毎日考えました。そこ  
で思ったことが、「自分が本気でぶつ  
かれば、相手も本気でぶつかってき  
てくる」ということでした。とにかく

んなを信じて、私は本気でぶつかりま  
した。すると、次第に先生から褒めら  
れたり、全パートの練習でも自信を持  
って歌えるようになっていきました。  
そしてついには合唱部全体の雰囲気  
も、やる気もいい方向へ変わってい  
たのです。

そして迎えた郡の音楽祭。私たち三  
年生にとつては最後の音楽祭です。と  
にかく悔いなく、今までやってきたこ  
とを信じて歌いました。会場にいる  
方々を感動させたいという思いで精一  
杯歌いました。そして最後になるかも  
しれない合唱を心から楽しみながら歌  
いました。歌い終えたときは達成感で  
胸がいっぱいでした。そしてついに、  
ずっと念願だった県大会出場を私たち  
は達成することができたのです。

このように私という人間を大きく変  
えてくれた合唱。何かに夢中になるこ  
との素晴らしさ、人とのコミュニケーション  
の素晴らしさ、人の気持ちになって  
考えることの大切さ、本気になって最  
後までやり遂げれば、夢は叶えること  
ができるということ。それらは合唱を  
やっていなければわからなかったこと  
かもしれません。多くのことを学び、  
考え、私自身大きく成長することがで  
きました。ただその陰には、多くの人  
の支えがあったことを忘れてはいけな  
いでしょう。ずっと本気で私たちと向  
き合ってくださった顧問の先生。苦し  
いときも励まし合って一緒にがんばっ  
た合唱部員みんな、こんな私たちに  
必死で応援してくださった保護者の皆

さんや先生方。そんな多くの方々に支  
えられ、今があると思っっています。本  
当にありがとうございました。心から  
感謝しています。  
飽きっぽい私が三年間本気でやり抜  
いた合唱。今なら自信を持って言えま  
す。  
「私は合唱が大好きです。」

# ワーキングプアを 減らすために

只見高等学校2年

わたなべ なつめ  
渡部 夏芽 さん



ワーキングプアとは、正社員並み、あ  
るいは正社員としてフルタイムで働い  
てもギリギリの生活さえ維持すること

が困難、もしくは生活保護の水準にも満たない収入しか得ることのできない、就労者の社会層のことを言います。現在このような状況にある人が増えていますが、それはどうしてでしょうか。ワーキングプアに陥っている人を減らすためにはどうしたらよいのでしょうか。

私は、ワーキングプアに陥った人に対する職業訓練校での育成、またそのための奨学金制度や優遇制度などのサポートシステムを整えることが必要だと考えます。なぜなら、ワーキングプアから脱却するには、より労働条件のいい会社に「転職」すればいいと考えますが、それがとても難しいからです。

ワーキングプアの増加の原因の中に、日本が、雇用に対する流動性のほとんどない新卒社会であることが挙げられます。「転職」の場合は新卒採用ではないので、中途採用の枠しかありません。中途採用における条件には非常に厳しいものがあり、主に「即戦力となるスキルの高い人材」を必要とした雇用です。しかし、その多くがパートやアルバイトなどの非正規雇用の形態をとっているワーキングプアには、そういったスキルアップの機会がありません。そのため正社員への登用の道がほとんどなく、転職したくてもできないまま、結局また非正規労働に頼らざるを得ない状況に追い込まれてしまっています。その上、生活するための収入がギリギリであれば、アルバイトを掛け持ちし、更に時間を削って働かなければなりません。つまり、ワーキングプア

から抜け出すためのスキルを磨くお金も時間もなく、悪循環が続いてしまうのです。

以上の点から、私は、ワーキングプアを減らすために、ワーキングプアに陥った非正規雇用の労働者と、これから社会に出てくる若者に対しての職業訓練等のスキルアップの機会を設けることが必要だと考えます。例えば、ワーキングプアは日本に限らず他の先進国でも問題視されていて、アメリカでは大学に企業の講師を招き、最先端のバイオテクノロジーを格安で低所得者に学ばせることで、地域の安定した労働者に育て上げる取り組みが行われています。また、イギリスでは若者に職業訓練を受けさせ、その期間中は生活費を国で負担し、就職できるまでサポートするなど、国をあげての支援が行われています。これらの対策のように、日本でも、ワーキングプアが現在の日本の深刻な社会問題になりつつあることをよく理解し、国が訓練校に通うための資金や生活費を負担するなどといった支援をもっと積極的にしていくべきです。お金にも時間にも余裕のないワーキングプアには、「悪循環」から抜け出すために外部からサポートしていくことが必要なのです。

もし、このような対策によってワーキングプアが減ったとしたら、どのような社会になるでしょうか。まずワーキングプアから脱却する、あるいは陥らないためにより高い技術を多くの人が身につけることで、国内全体の技術

力が上がります。「即戦力となるスキルの高い人材」をしっかりとした土台で育てていくことで、世界にも対抗できるような力を生み出すことができるのです。また、ワーキングプアから抜け出すことができれば、自分自身やそれぞれの家庭に生活の余裕が生まれま

すれば、旅行や買い物に多くの人がお金を使うようになり、経済の回復につながっていくでしょう。つまり、ワーキングプアが減ることによって様々な社会問題も連鎖的に解決し、技術や生活の質も向上することで、より住みよい社会になることが考えられます。それを踏まえた上で、私たちはワーキングプアという問題としっかりと向き合っていかなければならないのです。

## グローバルゼーションについて



只見高等学校2年

はっとり さやか  
服部 沙耶佳さん

グローバルゼーションとは、「地球一体化」のことです。モノ、お金、サービス、情報、そしてヒトの、国境を越えた移動が活発になり、政治、経済、または文化的な分野において世界的、地球的規模で様々な影響を及ぼすことです。今日、グローバルゼーションが急速に発展している背景には、生産の国際化が進んで貿易が大きく伸びたことや、インターネットの普及で世界中の相手と情報のやりとりが瞬時にできるようになったことがあります。

グローバルゼーションが進むと、国際的分業が発展して、より効率的な低コストでの生産が可能となり、物価が低下して社会が豊かになると言われています。それぞれの国には、特有の気候、資源、自然条件などがあり、生産しやすいものと、生産できてもコストが高つくものがあります。他の国と比べて有利に生産できるものをたくさん生産し、それを海外に輸出して、自国で生産しづらいものを海外から輸入すれば、お互い効率の良い生産ができます。しかし私は、低コストだけを指して生産することには問題がある

と考えています。

まず初めに、世界的な失業者の増加があげられます。国際的分業が進むと、国内で得をする産業としない産業に分かれてしまいます。得をする産業の中でも、大企業に生産が集中すると、その他の多くの企業は生き残れなくなり、失業者が増加します。

次に、先進工業国と発展途上国での経済格差がさらに広がる、ということがあります。工業がさかんではない発展途上国の主な輸出品は、農産物や鉱産物などの一次産品です。一次産品は、その年の気候などで価格が大きく変動するため、工業製品のように安定した収入を得ることが困難です。よって、先進工業国や大企業だけに利益が集中する可能性があります。さらに、大量生産だけを重視すると、環境破壊や児童労働などの問題も拡大してしまいます。

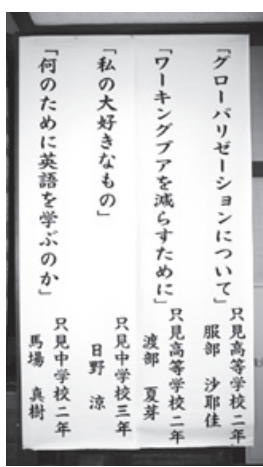
私は、これらの問題を解決した上で、国際的分業を進めるべきだと考えています。失業者の増加を抑える手段としては、一人当たりの仕事量を減らし、多くの人に仕事を与えられるようにする、ワークシェアリングがあります。ヨーロッパではすでに行われていて、特にオランダでは失業率を抑制し、景気回復を達成しています。このように、ワークシェアリングを国際的に導入すれば、失業者の増加を抑えることができます。また、貿易に国際機関が積極的に参入し、発展途上国が不利にならないよう適切な対策をすることで、国と

国との経済格差は解消されていきます。さらに、経済大国、先進工業国である日本の役割として、発展途上国への資金や技術の支援を継続して行うことも必要です。最近では、発展途上国の人々の生産物を適正な価格で買い取り、自立を支援する、フェアトレードのしくみが始まっています。フェアトレードのマークがついている商品を買うことで、私たちも発展途上国の経済を支援することができます。

今後はさらにグローバリゼーションが進み、国際的分業は発展していきまくさんありますが、うまく進行させることができれば、世界中で大きな利益を生み出し、国や人々を豊かにすることが可能です。実際に近年、アジアには、グローバリゼーションによって国際貿易が活発になり、著しく経済成長を遂げた国があります。

これらのことから私は、先進工業国や大企業だけが利益を得ることのないよう、一つ一つの問題をしっかりと解決し、グローバリゼーションの良さを最大限に引き出していくことが重要だと考えます。

「グローバリゼーションについて」  
只見高等学校二年 服部 沙耶佳  
「ワーキングプアを減らすために」  
只見高等学校二年 渡部 夏芽  
「私の大好きなもの」  
只見中学校三年 日野 涼  
「何のために英語を学ぶのか」  
只見中学校二年 馬場 真樹



## 只見町選挙管理委員会 新体制

2月19日に開かれた只見町選挙管理委員会において同委員会の新体制が決定しましたので、各委員を紹介します。

任期は平成24年12月26日から平成28年12月25日までです。

(敬称略)



▽委員  
渡部 英弥 (黒沢)



▽委員  
栗城 勝子 (只見)



▽委員長職務代理者  
日黒 友美 (二軒在家)



▽委員長  
横山 英彦 (楢戸)

### 町職員の退職

○退職町職員 (2月28日付)

五十嵐 彩香 (教育委員会)

## 南会津郡小中学校教職員研究物展

### 特別優秀賞に朝日小学校 優秀賞に只見小学校

福島県市町村教育委員会連絡協議会南会津支会などが行う、平成24年度南会津郡小中学校教職員研究物展で、朝日小学校（荒川文雄校長）が特別優秀賞を、また只見小学校（高橋吉博校長）が優秀賞を受賞しました。

朝日小学校は、学ぶ力を身につけ、ともに高め合う子どもの育成を目指し、子どもの実態を各調査で適切に把握、目標の設定や解決策などを明確にし学力向上に取り組まれている。

只見小学校では、自ら学び、ともに考えを深め合う児童の育成を目指し、児童に身につけさせた能力の育成を支える授業を各学年において展開し、形成が図られている。2校のこのような教育活動に対して各賞が贈られました。



▲特別優秀賞を受賞された朝日小学校



▲優秀賞を受賞された只見小学校

## 福島県優秀教職員表彰

### 小野 美喜 養護教諭（只見小学校） 塚田 玉江 主 査（朝日小学校）

只見小学校の小野美喜養護教諭と朝日小学校の塚田玉江主査の2名が、福島県教育委員会が行う平成24年度の「教育・文化関係表彰」で優秀教職員として表彰されました。この表彰は、全国一位レベルで活躍した児童生徒や、学習指導などで顕著な成果を挙げられた教職員を特別功績者として表彰するものです。

優秀教職員の部では、23名が受賞され、表彰式は2月15日に杉妻会館（福島市）で行われました。

小野養護教諭は、児童に寸劇を演じさせるなどして、う歯治療率を高め、またインフルエンザ対応では、保健だよりを毎日発行して成果を挙げました。

塚田主査は、毎日校舎を巡視し、備品管理に迅速に対応しており、さらに南会津郡事務研究協議会では事務職員の指導的立場として活躍されています。2名の方々は、このような日々の活動が評価され優秀教職員となりました。



▲表彰状を手にする小野養護教諭(中央)



▲表彰状を手にする塚田主査(中央)



▲優秀賞の賞状を手にする高橋吉博校長(左)

このような日々の努力が評価され優秀校となりました。います。

同小学校は、教育活動全体において「朝食について見直し週間運動」に積極的に取り組まれ、特色ある食育の推進に努められています。さらに保護者や地域と連携を図り、効果的な食育の推進にも力を入れ、活動を展開されています。

福島県教育委員会が行う平成24年度食育推進実践校表彰において只見小学校（高橋吉博校長）が優秀賞を受賞しました。

**只見小学校が  
優秀賞を受賞**

食育推進実践校表彰

# 役場新庁舎・地区センター建設設計業務プロポーザル第三次審査会

願います。

今回、最優秀賞を受賞された吉松秀樹さん（東海大学教授）のアイデアを仙田審査委員長の講評と併せ紹介します。

5者の説明が終了した後、同審査委員による審査が別室で行われ、最優秀、優秀、入選の受賞者が決定しました。今後は最優秀に選ばれたアイデアを基に、ワークショップを行い町民の皆さんからのご意見も取り入れていく計画です。ご協力をお願いいたします。

審査会では、来場された町民の皆さんも見守るなか、最終選考に残った5者の方々による提案アイデアの説明や解説が行われ、次に仙田満審査委員長をはじめとする10名の審査委員が質問をし、さらに詳しく提案内容を確認しました。

只見町役場新庁舎および地区センターの建設設計業務にかかるプロポーザル（技術提案）の第三次審査会が住民公開により、2月17日に季の郷湯らりで行われました。



▲住民公開による審査会

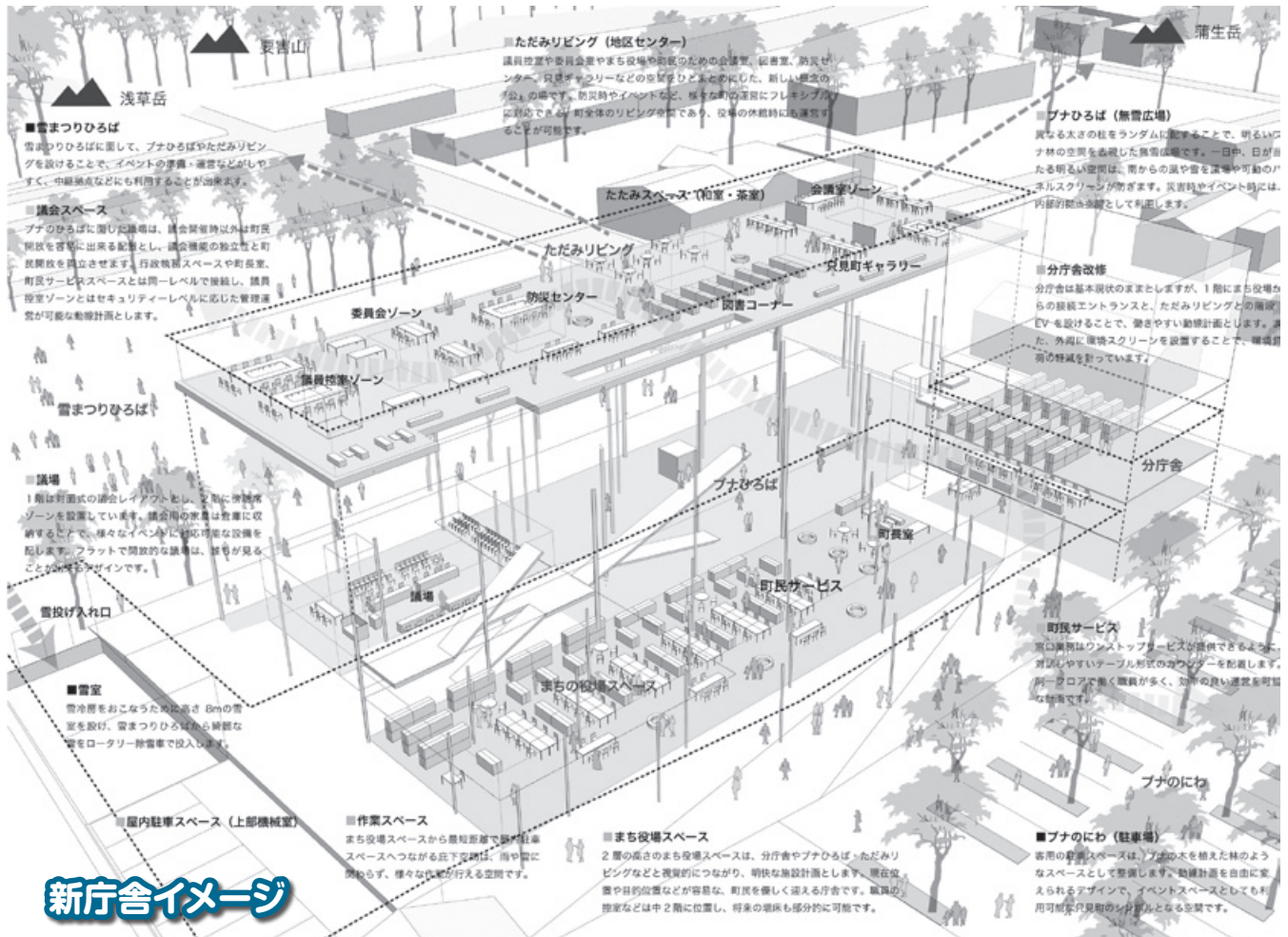
## 審査講評

吉松案の「塔としての庁舎」というコンセプトは秀逸である。只見町の谷間の集落の景観を見渡すレベルに只見リビングという透明な地区センター機能を設け、1階に窓口をはじめ庁舎の業務機能を一元化し、半屋外的な只見広場を只見リビングの足元にピロティ状につくり、雪祭りの広場とも連動させる構成は極めて巧みである。

町庁舎の今後の町づくり、あるいは観光的な拠点づくりにも大いに寄与すると思われる。コンセプトで透明性を掲げており、ガラス面の多用は雪国の対応として1階

周りには今後設計段階で十分な調整が必要と思われる。平らな屋根構成も長寿命化が進む町の中での建築のあり方として一つの解である。審査会において10人の審査員全員の支持を受け、最優秀案として決定された。技術的、環境工学的、雪工学的な問題は今後、住民とのワークショップ、専門家の協力により解決されると思われる。自然首都只見町の環境的な新たなシンボルとなることを期待したい。

只見町役場新庁舎+地区センタープロポーザルコンペ  
審査委員長 仙田 満



## 新庁舎イメージ





# ライバルそして自分との戦い

# 第51回只見町民スキー大会

好天に恵まれた2月17日、絶好のコンディションとなった只見スキー場で、第51回町民スキー大会が行われ、町民140人が参加。ハイレベルな力強い滑りで練習の成果を発揮しました。

今年で51回を数える町民スキー大会には、就学前の5歳の子どもから70歳代の方までが参加、元気に競技に臨み冬のスポーツを楽しみました。

競技では、アルペン、クロスカントリーともに練習を重ねてきた選手がタイムを競い、爽快な汗を流していました。

クロスカントリーの小学校リレーには、町内3小学校の4年生から6年生が参加、各校とも毎日行なってきた厳しい練習の成果が滑りに表れ、先生や保護者から大きな拍手と声援が送られました。

また、各部門の入賞者のほかに、今大会参加選手の中で最高齢者の「鈴木章一さん・70歳(只見)」には、その活躍に対する特別表彰が贈られました。

大会の成績は次のとおりです。



▲鈴木章一さん

## 競技結果 (敬称略)

### 大回転

#### ▼未就学児の部

\*7名が参加(記録なし)

#### ▼小学校

【男子1年の部】①鈴木詠大(只見小) 1分11秒14 ②羽染治輝(只見小) ③三瓶創大(朝日小)

【女子1年の部】①鈴木莉子(只見小) 1分16秒57 ②鈴木杏(只見小) ③鈴木百香(只見小)

【男子2年の部】①大竹優真(明和小) 1分8秒89 ②菊地琉巧(明和小) ③山内友斗(明和小)

【女子2年の部】①鈴木来菜(只見小) 1分0秒81 ②目黒希(朝日小) ③橋川綾乃(明和小)

【男子3年の部】①新国太陽(只見小) 1分0秒24 ②鈴木涼(只見小) ③角田翔太(明和小)

【女子3年の部】①吉津花恋(只見小) 1分6秒13 ②渡部侑妃(朝日小) ③渡部千春(朝日小)

【男子4年の部】①目黒拓海(只見小) 1分6秒85 ②芳賀雄大(只見小) ③高階涼矢(只見小)

【女子4年の部】①新国理紗(只見小) 1分15秒46 ②目黒楓華(朝日小) ③鈴木美羽(只見小)

【男子5年の部】①齋藤結(朝日小) 1分3秒94 ②菅家尚真(朝日小) ③目黒佳祐(朝日小)

【女子5年の部】①増田樹(朝日小) 1分20秒92 ②鈴木萌(只見小) ③山内理子(明和小)

【男子6年の部】①渡部賢太郎(朝日小) 58秒33 ②菅家空(朝日小) ③吉津遥(朝日小)

【女子6年の部】①吉津万尋(朝日小) 1分15秒67 ②星鈴果(朝日小) ③鈴木凜(只見小)

#### ▼中学校

【男子の部】①鈴木翔(只見中) 59秒44 ②鈴木蓮(只見中)

#### ▼一般

【女子2部】①鈴木サナエ 1分33秒70

【男子1部】①五十嵐敦彦 59秒89 ②吉田俊一 ③山内泰生

【男子2部】①目黒光成 1分4秒93 ②鈴木章一

### スノーボード大回転

#### ▼小学校

【男子の部】①渡部春輝(朝日小) 51秒06

#### ▼一般

【高校生一般女子の部】①山内美穂 43秒35 ②原育美

#### ▼一般

【高校生一般男子の部】①五十嵐健司 33秒73 ②吉津一博 ③菊地伸

【男子5年の部】①五十嵐彪斗(明和小) 10分28秒 ②大竹力(明和小) ③布沢陽斗(明和小)

【男子6年の部】①布沢胤乃(明和小) 10分18秒 ②五十嵐健斗(明和小)

【女子4年の部】①菊地結月(明和小) 9分30秒

#### ▼中学校

【女子5年の部】①渡部美依(朝日小) 12分1秒 ②鈴木伶菜(只見小) ③菅家夏芽(只見小)

【女子6年の部】①山内花(明和小) 9分53秒

#### ▼中学校

【男子の部・クラシカル】①伊藤舜(只見中) 12分34秒 ②関本元樹(只見中) ③鈴木遥大(只見中)

【男子の部・フリー】①馬場那央也(只見中) 8分55秒 ②菅家雄矢(只見中) ③八久保洋介(只見中)

【女子の部・フリー】①渡部瑠唯(只見中) 12分54秒 ②山内結唯(只見中)

### 距離

#### ▼小学校

【男子の部】①朝日小A 18分43秒 ②明和小A ③朝日小B

【女子の部】①明和小A 20分37秒 ②只見小1 ③朝日小A

#### ▼中学校

【中学生の部】①只見中B 22分37秒 ②只見中C ③只見中D

### 距離

#### ▼小学校

## ～第2期・第3期生、全課程を修了～

# 地域人材育成ダイヤモンドプラン事業「ふるさと只見・人材育成講座」

幅広い知識を身につけた地域づくりのリーダーを育成することなどを目指し、平成22年度にスタートした「地域人材育成ダイヤモンドプラン事業」の第2期生9名と第3期生12名が2年間の研修を終え、全課程を修了しました。



▲受講生の成果発表



▲研修を修了されたみなさん

受講生皆さんに、研修を修了されたの感想をお聞きしましたので紹介します。皆さんのご活躍を期待いたします。

第2期生は「産業を興す人材育成」、第3期生は「集落づくり支援員の育成」を研修テーマに各分野で活躍される講師の講座を受講、知識を磨かれました。全ての研修を終えられた受講生の合同閉講式は、1月20日に季の郷湯らりで開かれ、受講生と関係者、町民の方々が参加しました。

あいさつで、小沼一弘町教育委員長は「この講座での経験を生かし育んだ夢を実現してほしい。今後の皆さんの活動は町民に勇気を与えてくれると信じています。がんばってください」と述べ、続いて目黒町長は「この講座で学んだことを生かしながら、目標に向かって全力で挑戦し皆さんが考えていること、思いを実現してほしい。期待します」と述べました。

続いて、目黒町長から受講生一人一人に修了証が手渡され、その後受講生による研修成果発表が行われました。発表では、皆さんが今後取り組もうとされるプランなどが分かりやすく説明され、どれも地域の発展や振興につながるもの期待できる素晴らしいものでした。

### 第2期生「産業を興す人材育成」プラン一覧（敬称略）

氏名	住所	タイトル・プラン
石橋明日香	蒲生	只見のお宝プロデュース
三瓶 宏人	只見	高齢者お手伝いサービス
目黒 芳雄	只見	薬草の町づくりと里山再生への新しい森林づくりへの挑戦
目黒 信	埼玉県(只見出身)	無農薬野菜の販売を通して只見町の活性化を図る
佐藤 順子	叶津	人材育成講座を受講しての想い
山中 美明	黒谷	只見農家レストラン&アットホーム居酒屋
松沢 健次	坂田	調理用オリジナルトマト「奥会津ルビー」の販売
高木 正貴	坂田	雪下野菜の販売
伏見 正寛	梁取	トマト石鯰の製造販売

### 第3期生「集落づくり支援員の育成」プラン一覧（敬称略）

グループ	氏名	住所	タイトル（私たちの目指す夢集落）
A	渡部スミ子	小川	≪お年寄りに優しい集落≫ 大事な先人達は 平等に楽しんで欲しい
	佐藤 順子	叶津	
	赤塚 洋介	長浜	
	松沢 健次	坂田	
B	会田いづみ	塩ノ岐	≪みんな家族で生き生き集落≫ ①～異世代がいつでも集まって、 ほっとできるような集落～ ②～家族に学ぶ教育～ ③～楽しみながら子育てがしやすい集落～
	菅家 成美	黒谷	
	酒井みき子	黒谷	
	佐藤 学	只見	
C	石橋明日香	蒲生	≪資源を活かした集落≫ ～イベントを開催し多くの観光客を呼ぶ ～自然の中で遊び学ぶ仲間づくり ～資源探しの組織づくり
	目黒 良樹	熊倉	
	三瓶 彰治	叶津	
	三瓶 真人	樫戸	

# 受講生18名 これからは・・・



**石橋 明日香さん (2・3期生)**

これからも只見の未来のために何ができるかを常に考え、少しずつでも確実に形にしていこうと思う。



**三瓶 宏人さん (2期生)**

私は、ダイヤモンドプラン事業で勉強した事を生かして、只見町の高齢者の支援やお手伝いをしていきたい。



**目黒 芳雄さん (2期生)**

農地、遊休地の荒廃化対策、高齢者の収入増加を図り観光にも活かせる薬草の町づくりを興したい。



**目黒 信さん (2期生)**

事業を通して、首都圏の人達と只見をつなぐ架け橋の役割を果たすとともに、新しい地域づくりに貢献したい。



**佐藤 順子さん (2・3期生)**

大変忙しく、原発の風評被害のため販売に飛び回る2年間でもあった。学んだノウハウを生かし、製造・販売をしていきたい。



**山中 美明さん (2期生)**

自分のやりたい方向性が見えてきた。只見の特色を活かした新しい事業を必ず始めたいと思う。



**松沢 健次さん (2・3期生)**

一生勉強のつもりで受講した。今後は持続可能な事業展開や集落づくりを目指し頑張りたい。「集落活性化倶楽部」を立上げた。



**高木 正貴さん (2期生)**

起業する際、事前の計画の重要さと、計画時の着眼点を学んだ。今後の営農に活かしていきたい。



**伏見 正寛さん (2期生)**

起業のきっかけは意外と身近にあるものが多いので、日頃から意識するように心がけていきたい。



**会田 いづみさん (3期生)**

グループで考えた「みんな家族で生き生き集落」というテーマのような集落の一員となれるような活動をしていきたい。



**渡部 スミ子さん (3期生)**

そこに住む人を大切にして、人のために自分らしく生きる、そういう仕事をしていきたい。



**菅家 成美さん (3期生)**

講座に参加して学んだことを活かし、自分ができることを少しずつ深めていけるよう心掛けていきたい。



**目黒 良樹さん (3期生)**

今後は「ニケ (3期生の組織名)」と言う組織を活用して、楽しいイベントを企画し多くの情報発信をしたい。



**三瓶 彰治さん (3期生)**

資源を活かした集落づくりの活動に春から取り組んでいき、少しでも結果の出るように励んでいきたい。



**赤塚 洋介さん (3期生)**

家族や行政の協力を得ながら、1人暮らしの老人世帯を少なくする夢集落を実現したい。(ホームシェア等)



**酒井 みき子さん (3期生)**

2年間学んだことを生かして、自分ができることから地域に貢献していきたいと思う。



**三瓶 真人さん (3期生)**

人材育成講座を通して「只見町の新しい観光」の構想ができた。まずは、只見町の素材集めと整備を見直していきたい。



**佐藤 学さん (3期生)**

講座では今後いろいろな場面で役立つであろうことを学んだ。微力ながらこの活動で得たことが何かの役に立てばと思う。

## 輝ける未来へ 新たなスタート

### 福島県立只見高等学校卒業証書授与式

春を思わせるさわやかな日差しが校舎を照らした3月1日、平成24年度第49回卒業証書授与式が只見高等学校体育館で行われ、菅野諭只見高等学校長から、卒業生代表の五十嵐愛さんに42名の卒業証書が手渡されました。

菅野学校長は式辞で「一歩ずつ目標に向かって進んでください。これからは自分自身で決断し前に進むこと。決断は人を成長させます。地域の担い手となり町の発展に寄与することを願っています」と述べました。

続いて目黒町長は「ふるさと只見の空気、水、人を忘れずに頑張ってください。只見町を支える力となってください」と祝辞を述べました。

在校生代表送辞で、島谷裕希さんは「先輩方と過ごした時間は宝物です。これからも先輩方を応援しています。只見高校卒業生としての誇りを胸に頑張ってください」と述べました。

また、卒業生代表答辞で、増田快さんは「辛いことや苦しいことも只見高校でみんなと生活したことを思い出せば乗り越えられる。今まで培ってきたことを生かし前進していく。今日までお世話になった皆様に感謝いたします」と述べました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。



▲卒業証書を受け取る「五十嵐愛」さん

## 仲間との生活ステップに新たな旅立ち

奥会津学習センターでは、2月28日、只見町山村教育留学生第9期生の送別式が行われ、平成24年度は留学生11名が志を胸に巣立ちました。

はじめに、齋藤修一教育長が「目標や希望をしっかりと持って実現に向け頑張ってください」とあいさつを述べました。

続いて3月1日に卒業式を迎える留学生からは「3年間色々なことを学んだ。これを糧にこれからも頑張っていく」、「ここでの生活で学んだことを生かし目標に向かって頑張っていく」などと3年間を思い起こし、あいさつをしました。

齋藤教育長からは、留学生一人一人に記念品が贈られ、送別の意を表しました。

送別式には、学習センターを管理する目黒淳一NPO法人ゆいネット只見理事長も出席され、あいさつを述べ留学生を激励しました。

### 只見町山村教育留学生 第9期生送別式



▲志を胸に新たな道へと歩み出す第9期生

## 民 雪おろし体験ボランティア 家の雪おろしで豪雪を体感

NPO法人ハートネットふくしま(吉田公男理事長)では、2月2日と3日に「雪おろし体験ボランティア」を只見町で行いました。参加者は郡山市や兵庫県たつの市、奈良県奈良市、東京都杉並区から集まった11人、地元ボランティア団体の只見町シェルナッハの会(山岸秀弥会長)と、3軒の民家の雪おろしに汗を流しました。この取り組みは、ハートネットふくしまが、阪神大震災で出会ったボランティア仲間呼びかけで実現、今回で16回目。一昨年の新潟・福島豪雨災害の際にも只見町を訪れボランティア活動をされています。



▲除雪作業に取り組むボランティアの皆さん

## 只 ブナセンター講座 見の伝統食「トチ餅づくり」を体験

2月13日にブナと川のミュージアムで「トチ餅づくり」が行われ12名が参加しました。1月18日に行なったトチの皮むきからはじまり、今回まで全4回の講座となりました。アク抜きをしておいたトチの実が、柔らかくならず苦労しましたが、最後には4升のトチ餅ができあがり、あんこやきな粉をまぶし、参加者全員で試食しました。参加者はトチ餅作りの大変さを痛感しながら、そのおいしさを満喫しました。



▲トチ餅のおいしさに感動の参加者

## 只 森林環境税活用記録事業 見町のアケビつる細工が選定



▲取材を受ける酒井洋子さん

只見町の酒井洋子さん(福井)がつくるアケビつる細工が、福島県の森林環境税を活用した記録事業として収録されました。これまでに三島町のマタタビ細工、檜枝岐村の曲げ物などが森林文化記録映像として収録されており、只見町ではアケビつる細工が選定されたものです。洋子さんは義父の故義男さんの指導を受けた後、約40年もつくり続けています。この映像は25年度中に県の森林環境税のホームページから閲覧できるようになりますので、ご覧ください。

## 個 自然観察会 性的な冬芽を観察



▲雪の上で冬芽を観察する参加者

只見町ブナセンター主催で2月10日、只見川公園を会場に「冬芽の観察会」が開かれました。参加者は11名で、高原豊さんをガイドに、みんなでかんじきをはき、コブシやハナミズキの花芽、堅い芽鱗におおわれたブナの冬芽、ねばねばした物質でおおわれて寒さから身を守っているトチの冬芽など個性的な冬芽を観察しました。参加者は、かんじきをはいて歩くのがとても楽しかったと笑顔を見せていました。

# Anna先生のLife in JAPAN Vol.26



■ Anna・George  
 ・1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。  
 ・2010年8月から只見町英語指導助手。  
 ・小学校と中学校で語学の指導を行います。

2月もまた大雪に見舞われました。冬は本当に美しいと思うのですが、春には今すぐ来てほしいです。

今年も「只見雪まつり」に行ってきました。本当にすてきな時間を過ごし、おいしいものを食べました。特に「マトンケバブ」。花火もとてもすてきでした。いつの日か、また只見の雪まつりに来てみたいと思います。

先日、只見中のスキー教室があり、私も参加してきました。生徒のみなさんは本当に上手にスキーを滑っていました。私はスキーが全くできないので、スノーボードで参加したのです



が、まだまだ上手ではありません。

もうすぐ卒業式になります。3年生が去ってしまうのはとても悲しいです。卒業生全員の進路の先に幸運とすばらしい時間が待っていることを祈っています。また、小学6年生が只見中学校に入学してきてくれることも楽しみにしています。そのみなさんも只見中学校で楽しい中学校生活を送るよう期待しています。

(訳・只見中・平野)

## 広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 菅家 智史

### 『電子カルテを導入します』

今年には積雪が多く、気温も低い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。私は先日、足を滑らせて転倒し左手を地面に打ち付けてしまいました。幸い骨折せず済みましたが、転倒しやすい日々は続きますのでどうぞお気をつけください。

さて、今回は朝日診療所の設備についてのお話です。朝日診療所には「医療機器委員会」があり、医療機器の管理・更新などを担当しています。朝日診療所が新築移転してから8年が経過し、医療設備も徐々に古くなってきています。器械によって使用できる期間や耐久性が異なりますので、使用状況を見ながら順次入れ替えを行なっています。昨年は超音波検査の器械や血液検査の器械などを更新しました。あくまでも「診療所」ですので、大規模病院のように最先端の器械とまではいきませんが、診療所での必要性に合わせ、十分な機能を持つ機器を、計画的に入れ替えていきたいと考えています。

そして3月下旬、朝日診療所ではこれまで使っていた紙のカルテを電子カルテに変更します。全国的に見ると2000年代から電子カルテの導入が進められてきました。他の医療機関を受診した際に、医師や看護師がパソコン

コンに向かってカチャカチャやっている様子をご覧になったこともあるかと思いますが。電子カルテを導入することで、倉庫や棚から紙カルテを探す必要がなくなる、紙のカルテをはこぶ必要がなくなる、過去のデータをすぐに見ることができるといった、長期的にみて良い点が多いと考えています。

導入からしばらくの期間、職員が電子カルテに慣れるまで、診察・会計などでお待たせしてしまうことがあるかと思えます。看護師不足の状態も続いており、皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、できるだけ待ち時間が少なくなるように体制を整えていきます。

今後も町民の皆さんにとって身近な診療所としてお役に立てるよう、職員一同努力してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いたします。



## 共有林はムラの財産／只見町の共有林に学ぶ⑦（最終回）

塩沢区における  
ワラビ園管理の事例

共有林に関わる私たちの研究

を紹介してきたシリーズ最終回の今回は、塩沢区のワラビ園の管理・運営についてご紹介いたします。塩沢区の現在の戸数は約30戸、1960年頃までは約60戸ありましたが、滝ダムの建設によつて約30戸は集落外に移転しました。只見町の行政区のなかでは比較的戸数も少ない塩沢区は、共有地（正確には複数人の個人所有の土地で、かつて共有地だった土地）を利用してワラビ園を経営し、部外者の入山を認めています。

現在ワラビ園として利用されている土地の一部は、もともと水没移転した人たちが畑として利用していた土地で、そこを最初は区民共同で桑園として利用しました。しかし繭の価格が下落したこともあり桑園として利用されなくなったため、リーダー格のI氏を中心としてワラビ

園として整備しました。当初のワラビ園は11ヘクタールほどでしたが、その後徐々に面積を増やして現在は17ヘクタールほどの運営を行っています。

ワラビ園を維持するために塩沢区では、秋の稲刈り後の刈り払いと春のゴールデンウィーク頃の火入れを毎年行っています。また、ワラビ園を拡大するためには低木の伐採作業も必要でした。塩沢区では、この伐採や刈り払い作業のために、東京から来るボランティア団体で2005年頃から毎年受け入れられています。ボランティアには毎年20人前後が来るうえ、作業にも慣れた人たちなので、ワラビ園管理のための大きな戦力になっています。また、春の火入れは区民総出で行っています。

ワラビ園の営業は例年、ワラビ等の山菜の出る5月中旬から6月の2ヵ月間のうちの、火曜、木曜、日曜の週3日です。この期間に毎年600〜800人が入山し、入山料は半日で一人あたり2千円なので、一シーズン

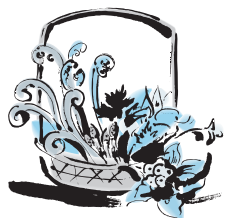
に140万円前後の売り上げになります。入山者をほぼ一日おきに制限するのは、ワラビを採った後に再びワラビが生長してくるのに二日ほどかかるためです。入山料徴収のために営業日には集落から一人または二人の案内人を置いて、案内人には6千円の日当を支払っています。売上は案内人や刈り払い作業の日当に充て、残りは区民が毎年支払う区費の負担軽減にまわっています。また、毎年6月最初の日曜日には山菜まつりを開催しており、例年数百人の観光客が参加します。来場者には無料で山菜汁などをふるまうため、前からテントを張るなどの準備を行います。

ワラビ園の来場者のうち、半分ほどは茨城や東京などの関東地方からの来場者で、県内では福島市や郡山市からが多いとみられています。毎年グループで参加している固定客が多いものの、最近ではインターネットのサイトを見て来たという人もいます。宣伝はインターネットのほか、只見町観光まちづくり協会を通じた紹介も行っ

ています。来場者のうち七割ほどは日帰りですが、三割ほどは只見町内に宿泊しているため、一定の経済的波及効果もあるといえます。

少し大きな視点から考えてみると、日本が林産物を大量に輸入するようになって産業構造が変化したことと、それにも起因して山村に住む若い人が減少したことなどにより、かつて盛んに利用されていた共同管理の森林や牧野が利用されなくなってきました。これは只見町だけでなく、日本中の山村でみられている現象です。しかしその一方で、只見町をはじめとする山村地域の豊かな自然にあこがれる都会人は多くいます。今回の記事で紹介した塩沢区の事例は、そうした部外者とうまくつきあう方法の一つを示しているのではないかと、私たちは考えています。

にぎわいを見せる  
塩沢区の家菜まつり



# 町民文芸



## 只見短歌会

一月詠草

大塚栄一 指導

小倉キミ子

片付かぬ事の重なり晴れぬ日は箇条書きにし眺めて過ごす

古川 英子

新年の挨拶交し診察を待つ人群中に酒の匂ひす

関谷登美子

他の土地で元日迎ふる娘をれば心にとめて初詣する

渡部ゆき子

寒波来る予報に凍餅作らんと米を浸して道具を揃ふ

馬場 八智

時期早きどか雪降りて若杉の折れし傷跡日にさらさるる

目黒 富子

屋根の雪下ろすと夫の上がりしを確かめ姿の見ゆる場に立つ

五十嵐夏美

寄宿舎に又一人友の入りしと電話に息子の声は明るし

渡部ヨリ子

作業場の軒に下げおく正月の飾りの稲穂を雀ら啄む

新国 洋子

二百枚も印刷すれど出せぬまま届きし賀状を病床に読む

( 出 詠 順 )

## 只見俳句会

二月例会

目黒十一 指導

礼

中空にふわりと寒し昼の月  
凍餅の晒されてゆく白さかな

信

枯銀杏変らずありし学生街  
寒晴やゲレンデスキーゆつくりと

修 一

冬空の雲間の日ざし足を射る  
生き方に覚悟をせむとシクラメン

一 灯

目に見えぬ埃を撫でて拭始  
凍て川や橋復興の足場組む

藤 彦

友来る豆腐煮詰まる夜半の冬  
宵深し話の尽きぬおでん酒

又 壱 歩

子が親になれて嬉しき春の朝  
歳一つ重ね賀状のへりにけり

恒 夫

屋根裏の雪の重みや火伏神  
打豆を打つや大屋根雪崩るるよ

吉 児

熊汁の出店今年は見ず終い  
赤腹の鮭漬封切る女正月

隆 堂

浅草山咽ぶがごとく雪しまく  
声あげて軒巡りゆく寒雀

邦 男

立春や端縫い袋に母の影  
雪祭り雪の香りのにしん漬

邦 夫

逝く妹よ大雪なれどよく眠れ  
かまくらや点す会津の絵ろうそく

康 女

ゆきずりのマスクの上の目が笑う  
かくし芸のりんごの皮の長きこと

リウコ

冬籠羊羹を練る甘味加減  
寒晴や客来る準備整えて

都

歌留多取る幼き子等と爺と婆  
目をつむり初髪之母九十五

一 穂

六歳の火の用心や初座敷  
集う顔みなほころびて寒の飴

洋 子

吹雪かれて鰻絵の鶴の丹色かな  
雪の日や雪飲み込んで荒れし川



# 簡易水道施設等維持管理業務委託 公募

只見統合簡易水道施設等の一部管理を平成25年4月1日から再委託しますので、受託を希望される法人は下記の要綱に基づき関係資料の閲覧及び書類の提出をお願いします。

記

## 只見統合簡易水道施設等維持管理業務委託要綱

### 1. 委託名称

只見統合簡易水道施設等維持管理業務委託

### 2. 委託実施場所

- |        |              |       |              |
|--------|--------------|-------|--------------|
| ①只見地区  | 管路延長：20,005m | ②黒谷地区 | 管路延長：17,154m |
| ③熊亀地区  | 管路延長：3,995m  | ④小林地区 | 管路延長：14,357m |
| ⑤塩沢地区  | 管路延長：5,539m  | ⑥叶津地区 | 管路延長：1,609m  |
| ⑦寄岩地区  | 管路延長：339m    | ⑧宮測地区 | 管路延長：766m    |
| ⑨不動堂地区 | 管路延長：1,586m  |       |              |

### 3. 業務委託期間

業務の委託期間は平成25年4月1日から平成26年3月31日までとする。

※ 選定委員会の審査結果によっては、複数年契約も可能とする。

業務受託者は町から技術指導を受け、業務の遂行に支障をきたすことのないように引き継がなければならない。

### 4. 業務委託内容

「只見町浄配水場等運転管理業務委託仕様書」による。

### 5. 応募資格要件

- 1) 受託水道業務技術管理者を配置していること。
- 2) 受託に必要な資格者や実務経験者が確保されていること。
- 3) 緊急時の支援体制が確保されていること。
- 4) 只見町に事業所を有すること。

### 6. 募集手続

「只見町浄配水場等運転管理業務委託仕様書」及び関係資料の閲覧、概要説明等を平成25年3月4日(月)から平成25年3月14日(木)までの午前9時から午後5時まで只見町役場 環境整備課 事務室内で実施する。

なお、質問等については上記の期間内に、書面に内容を簡潔にまとめて提出すること。回答は書面により行い質問者への送付する。また、募集期間中に質問書と合わせて閲覧に供する。

### 7. 提出書類

- 1) 会社概要書
- 2) 資格要件に記載した資格を有する証明書等の書類
- 3) 施設管理に関する計画及び業務遂行・危機管理体制の企画書
- 4) 水質管理の計画書
- 5) 業務委託料見積書
- 6) 委託料費用内訳明細書

### 8. 提出期限

平成25年3月19日(火)までとする。

### 9. 書類提出先

只見町役場 環境整備課 生活環境班 (電話 82-5280)

### 10. 選定基準

只見町プロポーザル方式業者選定委員会設置要綱に基づき、応募資格要件、会社概要及び各種企画書、計画書を基に審査し選定する。

# 今月の お知らせ

## Information

## 電話番号

総務企画課	
総務班	☎ 82-5050
	☎ 82-5210
企画班	☎ 82-5220
町民生活課	
税務班	☎ 82-5110
町民班	☎ 82-5100
保健福祉課	
保健班	☎ 84-7005
福祉班	☎ 84-7010
産業振興課	
農林班	☎ 82-5230
交流推進班	☎ 82-5240
環境整備課	
地域整備班	☎ 82-5270
生活環境班	☎ 82-5280
会計室	☎ 82-5120
議会事務局	☎ 82-5300
農業委員会	☎ 82-5230
教育委員会	☎ 82-5320
学校給食センター	☎ 84-7180
只見保育所	☎ 82-2219
朝日保育所	☎ 84-2038
明和保育所	☎ 86-2249
朝日診療所	☎ 84-2221
(歯科)	☎ 84-2612
訪問看護ステーション	☎ 84-2130
こぶし苑	☎ 84-2101
保健福祉センター	☎ 84-7005
只見地区センター	☎ 82-2141
朝日地区センター	☎ 84-2111
明和地区センター	☎ 86-2111

## 税

## 今月の納期

3月25日までに納めましょう

● 農集排使用料

(3月分)

# 3.11ふくしま復興の誓い2013in南会津 開催

東日本大震災で犠牲になった方々の追悼と南会津地域の復興を祈念するイベントを開催します。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。入場は無料です。当日はマトンケバブなどの無料ふるまいもあります。

- と き 3月11日(月) 午後4時～午後8時
- ところ 御蔵入交流館(南会津町田島字宮本東22)
- 内容 ワークショップ、作品展示、追悼行事、復興祈念イベント、キャンドルナイト、花火など

※当日は無料の送迎バスを運行します。事前に申し込みが必要ですので、参加希望の方は、3月11日(月)の正午までに総務企画課企画班(下記)へご連絡ください。

## 無料バス時刻表

行 き	
只見町役場	16:00
朝日地区センター	16:15
明和地区センター	16:25
御蔵入交流館	17:30
帰 り	
御蔵入交流館	20:15
明和地区センター	21:20
朝日地区センター	21:30
只見町役場	21:45

【問い合わせ】総務企画課企画班 ☎0241-82-5220

## こころの相談電話

「日本精神衛生学会」では、災害発生時に精神的な問題に対応する緊急対応組織として、MCRT(メンタル・クライシス・レスポンス・チーム)を設置し活動しています。

東日本大震災発生から2年を迎えるにあたり、フリーダイヤルによる電話相談を開設します。この電話は被災者の方々や支援活動に従事されている方々の精神的な悩みなどに対応します。ご相談ください。

東日本大震災「こころの相談電話」  
☎0120-111-916(フリーダイヤル)

- 相談内容
  - 被災者の方々の被災に伴う精神的な悩みや問題に関すること
  - 支援活動に関係する方々の精神的なサポート
  - 原発損壊に伴う各種不安に対するサポート
- 開設日時 平成25年3月13日(水)～20日(水)の8日間  
午前10時～午後8時
- 相談担当 臨床心理士、保健師・精神保健福祉士、精神科医師など

【問い合わせ】日本精神衛生学会事務局  
〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場2-1-2  
TOHMA高田馬場12階  
TEL: 03-6457-3921  
FAX: 03-6457-3921  
MAIL: n.s.e.g@d7.dion.ne.jp  
東日本大震災支援チーム 代表 高塚雄介

## 町 長 室 日 誌

〈 2 月 分 〉

- 1日 土地改良区理事会・新年会
- 4日 当初予算町長査定(～6日)
- 7日 南会津広域市町村圏組合管理者会、福島県土地連南会津支部総会、南会津地方土地開発公社理事会、会津高原ふるさと推進協議会理事会、南会津地方町村会総会
- 8日 只見ふるさとの雪まつり雪像引渡式、柏市との懇談会
- 9日 只見町ふるさとの雪まつり開会式
- 10日 只見ふるさとの雪まつり(第2日目)
- 13日 只見線活性化協議会中央要望(国土交通省、総務省)
- 14日 会津総合開発協議会緊急要望活動(総務省、国土交通省、自民党本部)
- 15日 只見町農業再生協議会通常総会
- 17日 只見町町民スキー大会、からむしの里雪まつり、会津かねやま雪まつり、役場庁舎プロポーザル第3次審査会
- 19日 臨時庁議
- 20日 関東森林管理局長表敬訪問
- 21日 只見町議会全員協議会
- 22日 季の郷湯ら里取締役会
- 24日 青少年健全育成主張大会・標語表彰式、芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞・町民文芸コンクール表彰式
- 25日 福島県町村会役員会
- 26日 福島県町村会定期総会、福島県国民健康保険団体連合会通常総会
- 27日 JR只見線要望活動(復興大臣、国土交通大臣、JR東日本本社)
- 28日 南会津地方環境衛生組合議会定例会、南会津地方広域市町村圏組合議会定例会

# 町民の消息

(2月1日～2月28日届出分・敬称略)

## ■お誕生おめでとうございます

湯田 誠汰 (男/誠史・千穂) 布 沢  
三瓶 葉 (女/一則・莉沙) 榎 戸

## ■ご結婚おめでとうございます

只見 外島 義也♡郡山市 増子 祐美  
榎 戸 三瓶 真人♡新潟県 山田 恭子

## ■おくやみ申し上げます

酒 井 スエ子	84歳	塩 沢
三 瓶 マサ子	82歳	榎 戸
五十嵐 美枝子	74歳	八 木 沢
渡 部 久 雄	93歳	長 浜
星 ユ キ	78歳	長 浜
星 フ デ	89歳	塩ノ岐
馬 場 恒	85歳	只 見
馬 場 キク子	91歳	長 浜

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

# 人のうごき

平成25年2月1日現在

人 口	4, 7 6 0 (- 4)
男	2, 3 0 0 (+ 2)
女	2, 4 6 0 (- 6)
世帯数	1, 8 3 0 (- 4)
高齢化率	41. 3%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 6 転出 2 出生 3 死亡 11

▽今年のは、昨年末からの降雪以降雪が降り続き、只見町でも記録的な豪雪となりました。道路わきの雪の壁も、見上げるほどの高さとなり、その迫力に圧倒されているのは私だけでしょうか。雪まつりも大勢の方が詰めかけ、大成功に終わりました。これからは、日に日に暖かさが増し春の足音が聞こえてくる時期となってほしいものです。▽暖かくなると、雪崩が起きたり高く積もった雪が崩れたり危険度が増しますので、除雪作業はけがなどされないよう十分に注意して行なってください。

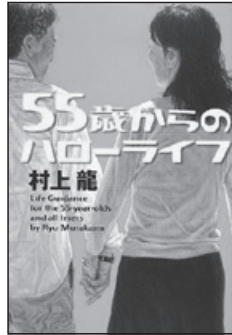
## あとながき

地区センター長  
馬場 博美

只見地区センター  
図書室 ☎ 82-2141

# おすすめ新着図書

## ★55歳からのハローライフ



村上龍/著 (幻冬舎)

人生でもっとも恐ろしいのは、後悔とともに生きることだ「結婚相談所」。生きてさえいれば、またいつか、空を飛ぶ夢を見られるかも知れない「空を飛ぶ夢をもう一度」。お前には、会社時代の力関係が染みついているんだよ「キャンピングカー」。夫婦だからだ。何十年いっしょに暮らしてると思っているんだ「ペットロス」。人を、運ぶ。人を、助けながら、運ぶ。何度も、何度も、そう繰り返した「トラベルヘルパー」。ごく普通の人々に起こるごく普通な出来事を、リアルな筆致で描き出した村上龍の新境地。

## ★農家に教わる暮らし術



農文協/著 (農文協)

身近な素材をとことん活かす。洗剤、消臭剤、化粧水、歯磨き粉などの日用品から、石窯、五右衛門風呂、太陽熱温水器、土間、竹ハウス、エネルギーなどの住まいまで、何でも自分で作る暮らしを愉しむ農家の技が満載。

## ★おかずスープ



藤井恵/著 (地球丸)

肉や野菜を加えた具だくさんのスープなら立派なメインおかずになるし、白いご飯を添えればそれだけで栄養バランスのよい食事。そんな手間いらずの「おかずスープ」を、肉・魚介・野菜の素材ごとに、約70レシピ紹介。

★図書室に関するご要望や購入図書のご希望など、お気軽にお寄せください。

## 町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

## ユキツバキ

(学名: *Camellia Decumbens*)

[ツバキ科 ツバキ属]

ユキツバキは、只見では単に“ツバキ”と呼ばれており、本州の東北地方から北陸地方の日本海側に分布します。標高の低い森林の林床などに自生しており、只見では、多くのブナ林でその姿を見ることができます。



ユキツバキは、数メートルもの雪に埋もれて春を待ちますが、雪は多くの空気を含むため、雪の中は外気ほど温度が下がりません。積雪が多い所では、低木以下の高さにおいて常緑性の樹木種が、意外なほどに北まで分布し、ユキツバキは、その例によく挙げられます。

雪に覆われて地表に押しつけられる形で冬を過ごすユキツバキは、春に雪解けが始まるとその姿を現します。すると、今まで雪に押さえつけられていた枝が、次第に立ち上がり、真っ赤な花をつけます。花期は5月上旬から下旬、雪の残っている所では、6月頃まで見ることができる只見の春を代表する花の一つです。

### 企画展示

#### ○「只見の巨樹・巨木」展

只見町の巨樹や巨木をパネル展示で紹介いたします。

期間：1月5日(土)～4月15日(月)

### ブナセンター 講座

#### ○「只見の古環境と人々の暮らし」

講師：渡部賢史さん(只見町教育委員会)

期間：3月23日(土) 13:30～15:00

### 自然観察会

#### ○「冬のブナ林をあるく」

日時：3月24日(日) 10:00～12:00

場所：深沢のブナ林

詳しくは、  
只見町ブナセンター  
までお問い合わせ  
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

## JR只見線の運行状況に関する情報は・・・

JR只見線の運行状況については、下記の電話番号やインターネットからお問い合わせいただき、必要な情報の確認ができます。運賃や各種料金、空席状況、新幹線のことなど様々な情報がおわかりいただけます。ぜひご利用ください。

### ○お電話はこちら○

JR東日本お問い合わせセンター ☎050-2016-1600

受付時間 6:00～24:00

### ○インターネットからは○

鉄道運行情報 <http://www.jikokuhyo.co.jp/>

JR東日本列車運行情報

[http://traininfo.jreast.co.jp/train\\_info/shinetsu.aspx](http://traininfo.jreast.co.jp/train_info/shinetsu.aspx)



全線再開通が望まれる只見線